

意見のとりまとめ

—今後の獣医学教育の改善・充実方策について—

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議
座長

唐木英明

獣医学教育の改善・充実方策調査研究協力者会議 教育内容に関する小委員会報告

① 導入教育

・獣医法規を除く導入教育（獣医学概論・獣医倫理）は**不十分**。

② 基礎獣医学

・古典的な講義科目は概ね教育されているが、動物行動学等の比較的新しい科目は大学によっては教育内容が**不十分**

③ 応用獣医学

・古典的な講義科目は概ね教育されている。比較的新しい科目や内容が高度化している科目、環境衛生学、獣医疫学は大学によって教育内容が**不十分**

④ 臨床獣医学

・教育内容が十分とは言えない。古典的な科目は概ね教育されているが、臨床薬理学や動物行動治療学、臨床栄養学、産業動物臨床学、臨床病理学といった理論を実践につなげる科目は教育内容が**不十分**

(2) 大学ごとの分析結果

① 獣医師養成課程の規模による比較

- ・小規模は兼任教員に依存。
- ・大規模の方が、全ての分野において教育内容・教育体制が充実。導入教育、臨床分野の講義、応用分野の実習は差が大きい。教育内容が不十分な分野ほど、両者の差が大きい。
- ・大規模においても、環境衛生学(講義、実習)、放射線実習など充実度が不十分な教育内容がある。
- ・教員の担当単位数については、大規模に比べて小規模は、講義が1.42倍、実習が1.19倍。

専任教員45名～58名の7校:規模タイプ1(ここでは大規模)

専任教員24名～34名の9校:規模タイプ2(ここでは小規模)

小規模の大学は教育体制が不十分

教育体制分析(専任教員数別比較)

導入

基礎

応用

臨床

平均

可分析(全大学)

科目名	単位数	平均	可分析(全大学)			
			a	b	c	-
獣医学概論	2	1.38	16	2	12	0
獣医法規	2	2.25	16	0	6	0
獣医倫理	2	1.88	6	2	8	0
解剖学	3	3.00	16	0	0	0
組織学	2	3.00	16	0	0	0
発生学	1	2.46	11	0	4	1
生理学	4	2.95	14	0	0	2
生化学	4	2.81	14	1	1	0
動物育種学	1	1.60	4	1	10	1
動物行動学	2	1.80	3	4	6	3
薬理学	4	2.94	15	1	0	0
病理学	4	2.88	13	2	0	1
免疫学	2	2.07	4	5	4	3
実験動物学	2	2.44	10	3	3	0
微生物学	3	2.94	15	1	0	0
家畜疾病学	1	2.75	14	0	2	0
魚病学	1	2.00	6	4	6	0
野生動物学	1	1.95	6	1	6	3
毒性学	2	2.13	5	8	3	0
動物衛生学	2	2.41	7	6	2	1
動物感染症学	1	2.75	13	2	1	0
寄生虫・寄生虫病学	2	2.75	14	0	2	0
獣医公衆衛生学総論	1	3.00	16	0	0	0
食品衛生学	2	2.99	15	0	0	1
環境衛生学	2	2.81	11	2	0	3
人獣共通感染症学	2	2.75	13	2	1	0
獣疫学	2	2.67	12	1	2	1
内科学総論	1	2.95	14	0	0	2
皮膚病学	2	2.95	14	0	0	2
神経病学	1	2.81	11	2	0	3
眼科学	1	2.77	10	3	0	3
画像診断学	2	2.61	10	1	1	4
放射線学	2	2.78	12	1	1	2
動物行動治療学	1	2.32	7	2	1	6
内分泌・代謝・中毒学	2	2.86	12	2	0	2
臨床繁殖学	4	2.81	13	0	1	2
臨床栄養学	2	2.90	13	1	0	2
産畜動物臨床学	2	2.73	9	5	0	2
泌尿器病・生殖器病学	2	2.81	11	3	0	2
消化器病学	2	2.81	11	3	0	2
呼吸器病・循環器病学	2	2.81	11	3	0	2
血液病学	1	2.89	13	0	0	3
臨床病理学	1	2.89	13	0	0	3
臨床薬理学	2	2.71	3	11	0	2
外科学総論	1	2.95	14	0	0	2
臨床腫瘍学	1	2.73	9	4	0	3
運動器病学	1	2.71	11	2	1	2
歯科・口腔外科学	1	2.77	10	3	0	3
手術学	2	2.85	12	1	0	3
麻酔学	1	2.86	12	2	0	2

大規模

45名以上)

科目名	単位数	平均	45名以上)			
			a	b	c	-
獣医学概論	2	1.43	1	1	5	0
獣医法規	2	2.14	4	0	3	0
獣医倫理	2	2.57	5	1	1	0
解剖学	3	3.00	7	0	0	0
組織学	2	3.00	7	0	0	0
発生学	1	3.00	7	0	0	0
生理学	4	3.00	7	0	0	0
生化学	4	3.00	7	0	0	0
動物育種学	1	1.57	2	0	5	0
動物行動学	2	2.00	2	3	2	0
薬理学	4	3.00	7	0	0	0
病理学	4	2.86	6	1	0	0
免疫学	2	2.14	3	2	2	0
実験動物学	2	3.00	7	0	0	0
微生物学	3	2.86	6	1	0	0
家畜疾病学	1	2.71	6	0	1	0
魚病学	1	2.43	5	0	2	0
野生動物学	1	2.00	3	1	3	0
毒性学	2	2.43	4	2	1	0
動物衛生学	2	2.71	5	2	0	0
動物感染症学	1	2.71	5	2	0	0
寄生虫・寄生虫病学	2	3.00	7	0	0	0
獣医公衆衛生学総論	1	3.00	7	0	0	0
食品衛生学	2	3.00	7	0	0	0
環境衛生学	2	2.86	6	1	0	0
人獣共通感染症学	2	3.00	7	0	0	0
獣疫学	2	3.00	7	0	0	0
内科学総論	1	3.00	7	0	0	0
皮膚病学	2	3.00	7	0	0	0
神経病学	1	2.67	4	2	0	1
眼科学	1	2.67	4	2	0	1
画像診断学	2	2.85	6	1	0	0
放射線学	2	3.00	7	0	0	0
動物行動治療学	1	2.67	4	2	0	1
内分泌・代謝・中毒学	2	2.86	6	1	0	0
臨床繁殖学	4	3.00	7	0	0	0
臨床栄養学	2	2.86	6	1	0	0
産畜動物臨床学	2	2.71	5	2	0	0
泌尿器病・生殖器病学	2	2.71	5	2	0	0
消化器病学	2	2.71	5	2	0	0
呼吸器病・循環器病学	2	2.86	6	1	0	0
血液病学	1	3.00	7	0	0	0
臨床病理学	1	3.00	7	0	0	0
臨床薬理学	2	2.43	3	4	0	0
外科学総論	1	3.00	7	0	0	0
臨床腫瘍学	1	2.71	5	2	0	0
運動器病学	1	2.86	6	1	0	0
歯科・口腔外科学	1	2.57	4	3	0	0
手術学	2	3.00	6	0	0	1
麻酔学	1	3.00	7	0	0	0

小規模

34人未満)

科目名	単位数	平均	34人未満)			
			a	b	c	-
獣医学概論	2	1.33	1	1	7	0
獣医法規	2	2.33	6	0	3	0
獣医倫理	2	1.33	1	1	7	0
解剖学	3	3.00	9	0	0	0
組織学	2	3.00	9	0	0	0
発生学	1	2.00	7	0	4	1
生理学	4	3.00	7	0	0	2
生化学	4	2.67	7	1	1	0
動物育種学	1	1.63	2	1	5	1
動物行動学	2	1.50	1	1	4	3
薬理学	4	2.88	8	1	0	0
病理学	4	2.88	7	1	0	1
免疫学	2	1.83	1	3	2	3
実験動物学	2	2.00	3	3	3	0
微生物学	3	2.67	9	0	0	0
家畜疾病学	1	2.78	8	0	1	0
魚病学	1	1.67	1	4	4	0
野生動物学	1	2.00	1	0	3	3
毒性学	2	1.89	1	6	2	0
動物衛生学	2	2.00	2	4	2	1
動物感染症学	1	2.78	8	0	1	0
寄生虫・寄生虫病学	2	2.56	7	0	2	0
獣医公衆衛生学総論	1	3.00	9	0	0	0
食品衛生学	2	3.00	8	0	0	1
環境衛生学	2	2.83	8	1	0	3
人獣共通感染症学	2	2.56	6	2	1	0
獣疫学	2	2.38	5	1	2	1
内科学総論	1	3.00	7	0	0	2
皮膚病学	2	3.00	7	0	0	2
神経病学	1	3.00	7	0	0	2
眼科学	1	2.86	8	1	0	2
画像診断学	2	2.60	4	0	1	4
放射線学	2	2.57	5	1	1	2
動物行動治療学	1	2.50	3	0	1	5
内分泌・代謝・中毒学	2	2.86	6	1	0	2
臨床繁殖学	4	2.71	6	0	1	2
臨床栄養学	2	3.00	7	0	0	2
産畜動物臨床学	2	2.57	4	3	0	2
泌尿器病・生殖器病学	2	2.86	6	1	0	2
消化器病学	2	2.86	6	1	0	2
呼吸器病・循環器病学	2	2.71	5	2	0	2
血液病学	1	3.00	6	0	0	3
臨床病理学	1	3.00	6	0	0	3
臨床薬理学	2	2.00	0	7	0	2
外科学総論	1	3.00	7	0	0	2
臨床腫瘍学	1	2.67	4	2	0	3
運動器病学	1	2.57	5	1	1	2
歯科・口腔外科学	1	3.00	6	0	0	3
手術学	2	2.88	6	1	0	2
麻酔学	1	2.71	5	2	0	2

不可
<2

問題有
2-2.5

>2.5
可

満点
=3

改善の具体的方策(1)

○ 今後の獣医学教育においては、**小委員会報告で明らかに**
なった課題を解決するため、以下の基本的方向で、改革を進める
ことが求められる。

① モデル・コア・カリキュラムの策定等による教育内 容・方法の改善促進

○ 専門職業人養成としての獣医学教育の標準化を図るため、大学・学協会
は連携して、我が国の獣医学教育で目指すべき理念、目的を明確にし、す
べての獣医系大学で共通して教育すべき到達目標・内容を整理したモデル
・コア・カリキュラムを策定する。

○ これを踏まえ、各大学においては、教育内容・方法の一層の改善と、高
学年を対象とした専門分野・職域別コースの設定など、大学の特徴を活か
した獣医師が進む多様な職域に対応する専門職業人育成体制を構築する。

改善の具体的方策(2)

② 獣医学教育の質を保証する評価システムの構築

- 大学は、獣医学教育の担い手として、獣医学教育の質の保証に第一義的な責任がある。自らの教育内容の質を保証するため、モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、厳格な成績評価や自己点検・評価の実施、情報公開などに取り組む。
- 大学・学協会は、獣医師会等の協力を得ながら、我が国の獣医学教育の質を保証するため、分野別評価システムを構築し、適切かつ厳格な評価を通じて、各大学の獣医学教育の改善に向けた取組が確実となるよう促す。

改善の具体的方策(3)

③ 共同学部・学科の設置など大学間連携の促進による教育研究体制の充実

- 各大学は、獣医学教育の担い手として、モデル・コア・カリキュラムで示された到達目標・内容の実現を図るとともに、自らの教育理念の実現や、社会や地域のニーズに応えるためにも、特色ある獣医学教育の展開が求められている。そのためには、戦略的に、学内外と連携して、比較優位な教育研究資源を結集し、獣医学教育に必要な教育研究体制の充実を図る。
- 特に、単独の大学で、目指すべき教育内容及び体制の充実が困難な場合には、教育課程の共同実施制度の積極的な活用により、共同学部・学科を設置し、これまで以上に他大学と有機的に連携・協力して、改善・充実のためのスケール・メリットを確保し、教育研究体制の充実を図る。

改善の具体的方策(4)

④ 臨床教育の充実に対応しうる附属家畜病院の充実

○ 各大学は、喫緊の課題である臨床教育の充実のため、先ず附属家畜病院

について、学生の臨床実習の充実と地域の獣医師のスキルアップ機能を担う中核的動物医療センター施設として、臨床実習機能を向上させる。

改善の具体的方策(5)

政府方針: ライフイノベーションへの対応

⑤ 新たに必要性が高まった生命科学分野の教育研究の推進

- 大学は、獣医学教育の特性を活かした教育研究の充実を図る。具体的には各大学において、大小動物等の動物生理の知見をベースとした生理科学その他の生命科学に関する教育研究が推進されるよう必要な環境整備を行う。その際、特に動物に起因する感染症対策、食の安全性の一層の確保、世界の医薬品市場への積極的参入などの社会的ニーズを踏まえ取り組むことが必要である。
- すなわち、感染症研究や新たな医薬品開発に必要な学問分野である生化学分子生物学、病理学、薬理学、毒性学などの分野における教育研究の充実、比較生物学的な観点を身につけるための指導の充実を図るよう努める。併せて、これらの教育研究が国際水準に達した高度かつ実践的なものとなるよう大学院教育の充実を図る取り組みを進める。

おわりに

本意見とりまとめは、我が国の獣医学教育における現状を踏まえ、社会ニーズへの対応など喫緊の課題への対応に向けて、今後、獣医学教育において必要とされる教育内容、体制等について審議し、意見を取りまとめたものである。

獣医系大学を始めとした関係者においては、この意見とりまとめにおける**提言に基づく改革に直ちに着手**し、獣医学教育の改善・充実に向けた取組を**着実に実施**していくことを強く期待する。

文部科学省においては、OIEにおける獣医学教育を巡る議論なども踏まえつつ、本意見とりまとめに基づき、関係省庁と連携しながら、**獣医学教育の改善・充実のための取組を推進していく必要がある。**

第3期 獣医学教育改革の方向性

教育

コア・カリキュラム

参加型臨床実習

コアカリ準拠
共通教科書

共用試験

参加型臨床実習の
違法性阻却

組織

共同教育課程 または
自助努力による
大学機構改革

分野別第三者評価

評価

獣医師国家試験

定員問題